

Press Release

2022.1.28

「OR We are still chatting.」

Sabbatical Company (杉浦藍・益永梢子・箕輪亜希子・渡辺泰子)

2022年2月19日(土) - 3月20日(日) 11:00-19:00 月火祝 休廊

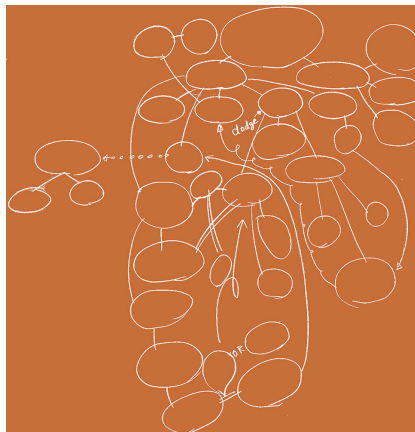
*新型コロナウイルス感染予防の観点より、来場者の密集を避けるため入場制限を行う場合がございます。

タリオンギャラリーでは、Sabbatical Company による展覧会「OR We are still chatting.」を開催いたします。是非ともご覧下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

Sabbatical Company は、杉浦藍、益永梢子、箕輪亜希子、渡辺泰子の4人により2015年に結成されたアーティストコレクティブです。それぞれが異なる手法で活動しながら、個人の時間とは異なるスパンを確保し、見過ごされていた好奇心を対話を通して結びつける様々なプロジェクトを行って来ました。

本展タイトルにある「OR」は、『言葉になる手前の時間を共に過ごす』というテーマとともに、Sabbatical Company のひとつの可能性を示すキーワードとして、結成当初から存在してきたものです。2016年に群馬で開催された展覧会「OR Have a good day.」における「OR」は、同じ場所で過ごすことに対するもう一方の可能性として提示され、「一緒にいられないなら、どうかよい1日」という思いが込められていました。その後メンバーのうち3名が国内外での滞在を経験し、2019年まで、文字通り離れた場所からの活動が続けられてきました。

4人が久しぶりに距離を近く暮らす今、世界的パンデミック下で多くの人々が実践するのと同様に、Sabbatical Company は改めて、「共に過ごすこと、その距離」について問う日々を過ごしています。結成当時、「10年たったら自分達の活動を言葉にしよう」と話し合ったことから、来たる2025年に向けて言葉を探し始めています。そこでのゆらぎや迷いは、再び「OR」というキーワードに回帰しています。本展「OR We are still chatting.」は、ミュージシャンである野内俊裕氏をコラボレーターとして招き、言葉が言葉として名指される手前のやりとりを、音楽の力を借りて形にします。どうぞご期待ください。



Sabbatical Company | Sabbatical Chart Map 02 | 2021

Sabbatical Company 現在地

2015年に結成された Sabbatical Company (以下サバカン) は、結成当初、『言葉になる手前の時間を共に過ごそう』というスローガンのもと、「今はまだ、自分達のやっつけようとしていることに名前をつけるのはよそう。そして10年経ったら一度この活動を振り返り、そこから生まれた言葉をまとめてみよう。」と決めました。現在まで9つのプロジェクトを行い、そこから発生してくる言葉を1つ1つ拾いながら思考することを試み、結成から6年という時間が流れました。約束の10年まではあと4年弱。その時間を私達は、意味づけすることをなんとか引き延ばし、また意味付けられることをなんとか躲しながら活動を続けようとしています。サバカンは現在、来るべき2025年に向かって、自分たちの活動のあり方を思考し始めています。今回の展覧会は、この状況における現在地を示そうと、2017年のプロジェクトでのコラボレーターであった、野内俊裕氏を再び迎え、私たちの言葉探しの時間を、音楽の力を借りて届けようというプロジェクトを新たに立ち上げました。

「OR」この言葉は、サバカンの活動の、ある種の可能性を示すキーワードとして、結成当初から常に存在してきました。2016年のプロジェクト、「OR Have a good day.」では、共に同じ場所で過ごすことに対する、もう一方の可能性として提示され、「一緒にいられないけど、どうかよい1日を」という思いが込められていました。その予感通り、この年からメンバーのうち3名が、時期をずらし国内外への滞在を行い、2019年まで、文字通り離れた場所から活動が続けられてきました。そして2020年以降、久しぶりに距離を近く暮らす中で起こった世界的パンデミック。サバカンは、多くの人々が実践するのと同様に、改めて共に過ごすこと、その距離について問う日々を過ごしています。私たちは自分達に独自に与えたあと4年弱という時間を、ゆっくりと、そして有効に使うため、言葉のあり方を思考し始めた中でのゆらぎや迷いを、再び「OR」のキーワードに回帰させました。

Sabbatical Company のミーティングはいつも取り止めもないおしゃべりが大半を占めています。その日の議題はいつしか忘れ去られ、最近見つけた面白いこと、美味しいもの、いろいろな噂話などでひとしきり笑い合った次の瞬間、新しい発見が生まれることもしばしば起こります。私たちにとっては全てのおしゃべりが大事な発見につながる道標です。見過ごしてしまいそうな言葉を大事に拾い上げる。そして、もう一度じっくりと眺めてみる。引き伸ばされた時間はそれを可能にしてくれるように思います。「OR OR OR OR.....」と結論を先延ばしにしながら私達はまだおしゃべりを続けています。

Sabbatical Company (杉浦藍・益永梢子・箕輪亜希子・渡辺泰子)



#04 展覧会 「OR Have a good day.」 Maebashi Works | 2016

Sabbatical Company

杉浦藍、益永梢子、箕輪亜希子、渡辺泰子の同世代4人により2015年に結成されたアーティストコレクティブ。安息日を語源とし、専門性を磨く創造的な長期休暇を意味するSabbaticalと、共にパンを食べる仲間を語源とするCompanyを組み合わせたコンセプトとして掲げる。

主な展示および活動

- 2019 「#07 Sabbatical Bird」ZINEを発行(ポートランド、アメリカ)
「#09 End of Summer Artist in Residence」(ポートランド、アメリカ)
「#08 Sabbatical Company "POTLUCK" party」(東京)
- 2018 「#07 Sabbatical Bird」Instagram
「Sabbatical Company+Yanai Toshihiro」の音源缶リリース
- 2017 「#06 (hanage+Sabbatical Company) sound」引込線(埼玉)
「#05 靴下を染めに行く」3331 Arts Chiyoda(東京)
- 2016 「Event もうすぐ着きます / We are almost there」
maebashi works(群馬)
「#04 OR Have a good day.」maebashi works(群馬)
「#03 Session_Have a good day!」(東京、ニューヨーク、上海)
「#02 Field Trip_1 浅井健二郎氏に会いに行く」
「#01 夕方帰宅してみると」milkyeast(東京)



#09 End of Summer Artist in Residence Program Open Studio
2019 | ポートランドでの展示風景



サバティカルカンパニー「Air Pump」MV | 2017



#04 展覧会「OR Have a good day.」Maebashi Works | 2016
撮影：木暮伸也



#02 Field Trip_1 浅井先生に会いに行く | 2016

杉浦藍 Ai Sugiura

- 1982 愛知県生まれ
2005 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業
2007 武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻彫刻コース修了

主な個展

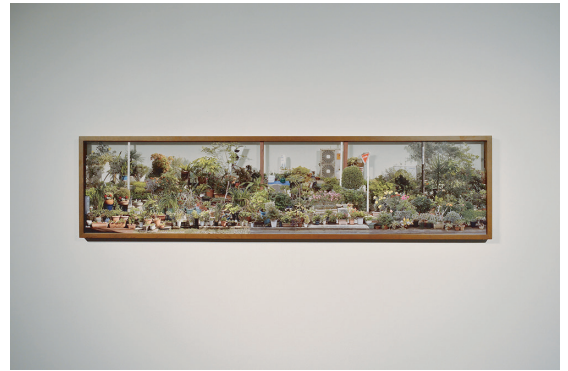
- 2021 「誰かの旅、知らない場所」 Second2. (東京)
2019 「Some Ways to Know Spring has Sprung」
Si:said gallery(クライペダ、リトアニア)
2017 「通り過ぎて、ふと止まる」 HAGISO (東京)
2016 「Neighborhood」 七月 (上海)
2014 「Fragments in daily life」 Lad Gallery (愛知)
「Fragments in daily life」
Treasure Hill Artist Village ATTIC Gallery (台北)
2013 「Go into a room」 fable8710 (東京)
「Because it is there.」 ギャラリー現 (東京)
2011 「Dream in a salad」 fable8710 (東京)
2010 「Electric mouse」 新宿眼科画廊 (東京)
2009 「The Seven Dwarfs」 ギャラリー現 (東京)
「宝探しごっこ」 ギャラリー現 (東京)
2008 「ペンシルロケット」 藍画廊 (東京)

主なグループ展

- 2021 「横浜 あの街を歩くー『草枕』のように、手書きの地図で」
横浜市内各所 (神奈川)
「#1」(Second2. (東京)
2020 「部屋と庭 隔たりの形式」 武蔵野美術大学美術館ギャラリー 1(東京)
「Creative Railway」 横浜高速鉄道 元町・中華街駅 (神奈川)
2018 「Time」 草御殿 Ivy Palace (台北)
2017 「A Fitting Pattern」 Book Site (台南)
「Lost in Materials」 Howl Space (台南)
「藝術躁動 Art Hyperactivity Disorder」 Shanghai Fashion Center(上海)
2016 「OR Have a good day」 Maebashi Works (群馬)
「Open Studio」 Swatch Art Peace Hotel (上海)
「MEMORY HOLDS A TONGUE」 DNA Idea Club (上海)
「夕方帰宅してみると」 Milkyeast (東京)
2015 「See Saw と K 氏のコレクション展」 See Saw Gallery (愛知)
「18x8」 PointB Worklodge (ニューヨーク)

主な受賞

- 2017 「大黒屋現代美術展」入選 (板室温泉大黒屋 / 栃木)
2011 「アーツチャレンジ 2011」入賞 (愛知芸術文化センター / 愛知)
2010 「前橋アートコンペライブ 2010」銅賞 (前橋テルサ / 群馬)
2009 「Amuse Art Jam 2009 in Kyoto」岩淵貞哉賞 (京都文化博物館 / 京都)
2006 「JEANS FACTORY ART AWARD」優秀賞
(高知市文化プラザかるぽーと / 高知)
2005 「武蔵野美術大学卒業制作展」優秀賞 (武蔵野美術大学 / 東京)



Neighbors/Kodaira | 2020 | デジタルプリント、額、アクリル板
35.4×142.3×3cm
武蔵野美術大学美術館ギャラリー 1(東京)での展示風景
撮影: 石川卓磨



Role Players I | 2019 | デジタルプリント、木、建材、石膏、クランプ
Si:said Gallery (クライペダ、リトアニア)での展示風景
撮影: Andrej Vasilenko



Gradual Boundary_Spring has Sprung I | 2019
アクリル板にデジタルプリント
Si:said Gallery (クライペダ、リトアニア)での展示風景
撮影: Andrej Vasilenko



Indoor Travel | 2016
240cm×300×135cm
木、針金、合板、ラッカー塗料、床材
Milkyeast (東京)での展示風景
撮影: 椎木静寧

益永梢子 Shoko Masunaga

1980 大阪府生まれ
2001 成安造形短期大学 造形芸術科 洋画クラス卒業
2018-2019 文化庁新進芸術家海外研修制度研修員として
ニューヨークに滞在

主な個展

2022 「editing」 nidi gallery (東京)
2021 「replace」 LOKO GALLERY (東京)
2019 「Box, Box, Box」 Cooler Gallery (ニューヨーク)
2018 「クリテリウム 93 益永梢子展」
水戸美術館現代美術ギャラリー第9室 (茨城)
2016 「ルランタットパダンパダン」 gallery yolcha (大阪)
「platform」 LOOP HOLE (東京)
2015 「Abstract Butter at HAGISO」 HAGISO (東京)
2013 「Line/Color」 ART TRACE GALLERY (東京)
2012 「Abstract Butter」 nidi gallery (東京)

主なグループ展

2021 SCENE5 「exercise」 臼井拓朗、益永梢子
Time & Style Midtown (東京)
「Face Up」内山聡、大槻英世、川崎昭、タナカヤスオ、益永梢子、
光藤雄介 / 都内某所 (東京)
2020 「Ordinary objects」アレックス・ダッジ、益永梢子、荻野僚介、
末永史尚 Maki Fine Arts (東京)
2019 「Behind the Seen」 NARS Foundation (ニューヨーク)
「Here: A Bit of Everywhere and Everyone They've Been」
NARS Foundation (ニューヨーク)
「The Body Responds by Lying」
NARS Foundation (ニューヨーク)
2017 「VOCA 展」上野の森美術館 (東京)
2016 「3331 Art Fair 2016-Variou Collectors Prize」
アーツ千代田 3331 (東京)
「夕方帰宅してみると」 milkyeast (東京)
「ポストにこれが届いていた」 ETNA&IONIO (東京)
2015 「絵画をつくる方法」児玉画廊 (東京)
「CHAIN REACTION」児玉画廊 (東京)
「三つの机のあるところ」秋本将人、臼井拓朗、益永梢子
Art Center Ongoing
2014 「複々線」現代 HEIGHTS Gallery Den (東京)
「メディウムの条件」ART CRITIQUE n.04 刊行記念企画、吉田和生、
早川祐太、益永梢子 HAGISO (東京)
2013 「引込線 2013」/旧所沢市立第2学校給食センター (埼玉)
「in the dish」瓜生祐子、益永梢子
成安造形大学内 ギャラリーキューブ (滋賀)



Wall#2 | 2021 | アクリル絵の具、油絵の具、木炭、キャンバス
41x60.6x2cm



アレックス・ダッジ、益永梢子、荻野僚介、末永史尚
「Ordinary objects」
2020 | Maki Fine Arts (東京) での展示風景



Abstract Butter | 2020 | ほうれん草ディップ、人参ディップ、
ケチャップ、マヨネーズ、バター、海苔、チーズ、食パン
約 11x11cm 6 枚切り



Box, Box, Box | 2019 | Cooler Gallery (ニューヨーク) での展示風景
撮影: mami kosemura

箕輪亜希子 Akiko Minowa

1980 東京都生まれ
2006 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業
2008 武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻彫刻コース修了

主な個展

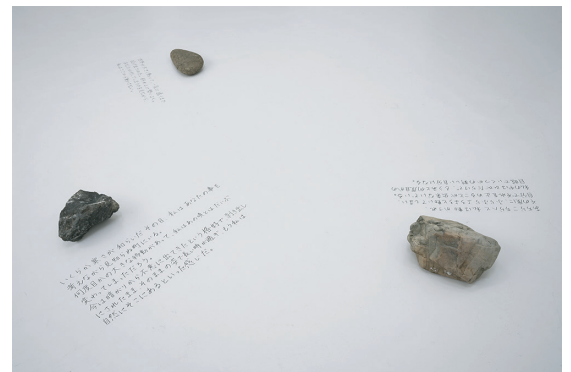
2021 「16:51 - 21:03」 gallery21yo-j (東京)
2020 「16:51 - 21:03」 tadpole-lab art project space (東京)
2018 「Picking Stones」 gallery21yo-j (東京)
2015 「距離と囲い」 krautraum (東京)
「貴方を思う。そしていくつかの私について。」 void+ (東京)
2014 「乳海攪拌と不出来なアマリタ」 gallery21yo-j (東京)
2012 「中庭のエコー」 gallery21yo-j (東京)
2011 「虫の居所」 switch point (東京)
2010 「投げ出される形」 ギャラリーQ (東京)
2008 「中断風景」 ギャラリーQ (東京)
2006 「ある庭で」 フタバ画廊 (東京)

主なグループ展

2020 「調布・巡る・アートプロジェクト」 調布市せんがわ劇場 (東京)
2018 「食事を終えたら日付をめくり、カレンダーの裏にはいくつかの線を描こう。」 krautraum (東京)
「彫刻と対話法 IV 揺さぶられる作意」
府中市美術館市民ギャラリー (東京)
「片目、複数の穴」 アートラボはしもと (神奈川)
2017 「美術作家と批評家による第6回自主企画展「引込線」2017」
旧所沢市立第2給食センター (埼玉)
「切断 vol.III」 3331 Arts Chiyoda 1F 3331GALLERY (東京)
2016 「MEETING POINT 2016」 府中市美術館市民ギャラリー (東京)
Sabbatical Company vol.1「夕方帰宅してみると」 milkyeast (東京)
2015 「Unknown VOID シリーズ No.6」 void+ (東京)
2014 「複雑線 I quadruple track」 現代 HEIGHTS Gallery Den (東京)
「META PLAY」 GALERIE KRITIKU (プラハ、チェコ)
「After History」 NADiff a/p/a/r/t (東京)
「From the nothing, with love.I 虚無より愛をこめて」
小金井アートスポット シャトー 2F (東京)
2013 「長い夢を見ていたんだ。I've Been Dreaming for a Long Time.」
TALION GALLERY (東京)
「美術作家と批評家による第4回自主企画展「引込線」2013」
旧所沢市立第2給食センター (埼玉)
「Unknown History シリーズ No.4」 Underground (東京)
「Tell all the Truth but tell it slant.I 真実を語りなさい、
しかし斜めに語りなさい。」 TALION GALLERY (東京)
2011 「所沢ビエンナーレ「引込線」2011」
所沢市生涯学習推進センター / 旧所沢市立第2給食センター (埼玉)
2009 「RE:Membering I Next of Japan」
DOOSAN ART CENTER DOOSAN GALLERY (韓国・ソウル)



16:51 - 21:03 | 2021
インスタレーション (映像: カラー、サウンド: 4時間 36分 / 文章 /
ライト / 印刷物 / googlemap / 街 / 他) サイズ可変
撮影: 坂田峰生



Picking Stones | 2018
インスタレーション (石 / 文章 / 写真 / 他) サイズ可変
撮影: 加藤健



House Effect | 2017 | インスタレーション (文字 / オレンジ / 籠 / 絨毯 /
腕時計 / 外の景色 / 照明 / レースカーテン / 椅子 / 望遠鏡 / 外の風景 /
鏡 / 本 / 石 / 地球儀 / 写真 / 青いアクリル板 / 写真 / 鳥籠 / 廊下)
サイズ可変 | 撮影: 椎木静寧



Trip with a stone | 2014
インスタレーション (映像: カラー、サウンド、13分 40秒 / 石 / 本 / 他)
サイズ可変

渡辺泰子 Yasuko Watanabe

1981 千葉県生まれ
2007 武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油画コース修了

主な個展

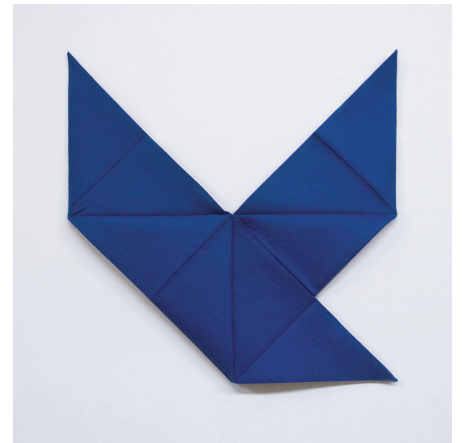
2015 「WOW! シグナル」GALLERY SIDE 2 (東京)
2011 「tempestoso/fantastico」gFAL、武蔵野美術大学 2 号館 1 階 (東京)
2010 「starlight star」GALLERY SIDE 2 (東京)
2008 「chorus」GALLERY SIDE 2 (東京)

主なグループ展

2019 「Small Infinity」MA2Gallery (東京)
2018 「象る、象られる。」
Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku (東京)
2017 「いちほらアート×ミックス 2017」IAAES (旧里見小学校) (千葉)
2016 「アートいちほら 2016 春」IAAES (旧里見小学校) (千葉)
「d.10 window Exhibition」ポレスター新町プレミアムステージ (青森)
「断片から景色」アキバタマビ 21 (東京)
「夕方帰宅してみると」milkyeast (東京)
2015 「カメラのみぞ知る」HAGIWARA PROJECTS (東京)
2014 「Paper Object Festival」Kalnciema iela (ラトビア)
「PIOON プロジェクト」ヴァンジ彫刻庭園美術 イケムラレイコ
PIOON 展関連企画、TRATTORIA LA BOCCA (静岡)
2013 「雲をつかむ作品たち」アートプログラム青梅、青梅市立美術館 (東京)
「サマー・ドローイング・ショウ」GALLERY SIDE 2 (東京)
「常設コレクション」、ビュフェこども美術館 (ベルナル・ビュフェ美術館内) (静岡)
2012 「虹の彼方」府中市美術館 (東京)
「small sculptures」GALLERY SIDE 2 (東京)
「絵画のなかで／へ」MA2Gallery (東京)
2008 「Formless Life」村住宅 1 F (金沢)
「トランザクション (Transaction)」GALLERY SIDE 2 (東京)
2007 「アート・アワード・トーキョー」行幸地下ギャラリー (東京)
「武蔵野美術大学卒業制作優秀作品・修了制作選抜展」(東京)
「シンクロニシティ」武蔵野美術大学修了制作展 (東京)
2006 「上を向いて歩こう」naca・NPO 法人アートコアあおもり (青森)
「シャドウ (shadow)」GALLERY SIDE 2 (東京)

主な助成 / 受賞

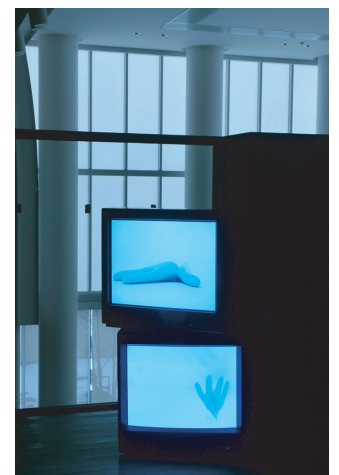
2017 平成 29 年度第 28 回五島記念文化賞美術新人賞
(2018 年 3 月 - 2019 年 3 月 新人賞副賞として海外研修(米英))
2014 公益財団法人 日新聞文化財団



A trick boat | 2017 | フェルト | 41×41×1cm



Dear outside | 2017 | ハンドメイドフェルト | 3300×3600cm



(上) re-touch[no.010-down] space
2012 | ビデオ | 1 時間 19 分
(下) re-touch[no.010] space
2012 | ビデオ | 1 時間 17 分



to far away [no.006]space | 2008 | ビデオ | 2 時間 32 分

—
本展覧会に関しまして貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸いです。掲載用写真の貸出、ご質問などございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

[展覧会概要]

展覧会名	OR We are still chatting.
アーティスト	Sabbatical Company (杉浦藍・益永梢子・箕輪亜希子・渡辺泰子)
会期	2022年2月19日(土) - 3月20日(日) 11:00-19:00 定休日：月・火・祝日
会場	TALION GALLERY 東京都豊島区目白2-2-1 B1
企画	上田剛史 (TALION GALLERY ディレクター)

[注意事項]

ご来場の際には、以下の点についてご協力をお願いしております。
最新の情報はギャラリーWebサイト taliongallery.com にてご確認ください。

- ・ 展示室内の密集を避けるため、入場制限を行う場合がございます。
- ・ 発熱、せき等の症状がある方はご来場をお控えください。
- ・ マスクの着用とカウンター設置の消毒液のご利用をお願いいたします。

[お問い合わせ]

TALION GALLERY 広報担当

Email: info@taliongallery.com Tel/Fax: 03-5927-9858

171-0037 東京都豊島区目白2-2-1 B1 URL: www.taliongallery.com